

カンショ活用型養豚による自給率向上とハイパー豚肉生産

1 中核機関・研究総括者

(独) 農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所 勝俣 昌也

2 研究期間

2006～2008 年度 (3 年間)

3 研究目的

用途の拡大が急務となっている規格外カンショやカンショ残さを、養豚用飼料として有効利用する技術を開発し、養豚の自給率向上と、高品質豚肉生産を目指す。

4 研究内容及び実施体制

- ① カンショ残さの消化性改善 (福岡県農業総合試験場)
酵素剤等を用いて、カンショ残さの消化性を改善する。
- ② カンショ残さを活用した高品質で機能性を有した豚肉生産技術の開発 (熊本県農業研究センター、(独) 畜産草地研究所)
良質の脂肪を有した脂肪交雑豚肉の生産技術を開発する。さらに、抗酸化能を有した機能性豚肉生産の可能性を検討する。
- ③ 規格外カンショを活用した特徴ある豚肉生産技術の開発 (千葉県畜産総合研究センター、(独) 畜産草地研究所)
規格外カンショを中ヨークシャー種に給与し、特徴ある銘柄豚肉を確立する。
- ④ 定量的な豚枝肉の脂肪評価基準と評価技術の開発 (福岡県農業総合試験場)
脂肪性状を化学性、物理性両面から解析し、キメ、シマリとの関連を解明した上で、定量的な豚枝肉の脂肪評価基準を決定する。
- ⑤ カンショを活用した高品質豚肉「ハイパー豚肉」の評価方法と販売方法の確立 (熊本畜産流通センター、熊本県農業研究センター)
高品質豚肉を、肉質や機能性という点で評価するため新評価基準を確立した上で、インターネットを活用した新規の流通販売方法を確立する。
- ⑥ フィールドにおける実証展示 ((独) 畜産草地研究所、福岡県農業総合試験場、熊本県農業研究センター、千葉県畜産総合研究センター、熊本畜産流通センター)
規格外カンショやカンショ残さを給与して高品質豚肉が生産される状況を生産現場において実証展示する。

5 目標とする成果

本研究は、未利用カンショを養豚用飼料として活用する技術を開発し、養豚飼料の自給率向上と、高品質豚肉生産を目的としている。これまで認められてきた飼料としてのカンショの特性に加え、カンショポリフェノールが有する抗酸化性を付与した機能性豚肉、良質の脂肪が蓄積した脂肪交雑豚肉の生産を通じ、さらなる高品質・機能性をもった豚肉生産を可能にする。さらに、肉質重視の評価方法を提案し、カンショを活用した豚肉の市場展開にも着手する。以上によって、未利用カンショを活用した①養豚の自給率向上への寄与、②高品質で機能性を有した「ハイパー豚肉」の生産技術の確立、③「ハイパー豚肉」の評価方法と販売方法の確立を達成する。

カンショ活用型養豚による自給率向上とハイパー豚肉生産

なぜカンショを？

★規格外カンショやカンショ残さの有効活用が急務



★養豚飼料として活用すれば…、

- ①自給率が向上する！！
- ②高品質豚肉が出来る！！
- ③カンショの機能性もすてがたい！！
etc.



だったら、何が問題なの？

「カンショの生産者や食品加工業者」と「養豚生産者」の連携が不十分だったので、規格外カンショやカンショ残さの有効活用ができていませんでした。

課題の目的

カンショ生産者
食品加工業



養豚生産者

両者の連携を促進
飼料自給率向上
高付加価値ハイパー豚肉

研究内容

酵素剤等の利用によるカンショの消化性向上

カンショの機能性成分の活用→機能性豚肉の生産

アミノ酸制御による良質脂肪交雑のある豚肉の生産

機能性と脂肪交雑を併せ
持ったハイパー豚肉生産

肉質重視の新規豚肉評価法の確立

新規評価法によるハイパー豚肉の評価

インターネット豚肉店でハイパー豚肉を販売

期待できる波及効果

★養豚における新規カンショ利用の事業化

- 自給率向上
- 高品質「ハイパー豚肉」の供給
- 国産豚肉の差別化